● がん検診の目的は？　　治療・救命までが　がん検診

がん検診の目的は、がんを見つけることだけではありません。検診の対象となる人たち（集団）の死亡率を低下させることが、がん検診の目的です。

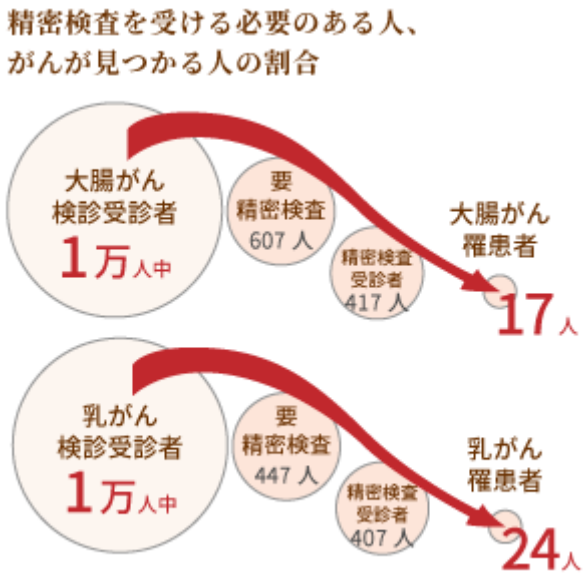
いくらがん発見率の高い検診を受けても、治療効果のないがんや、治療する必要のないがんがたくさん見つかるような場合は、死亡率低下の効果はありません。

これまでの研究によって、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの５つのがんは、それぞれ特定の方法で行う検診を受けることで早期に発見でき、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されています。

早期で見つけられれば、がんは決して怖い病気ではありません。「要精密検査」と判定されたら、自分や周りの人のためにも精密検査を受けるようにしましょう。

● がん検診でがんが見つかる人の割合は？

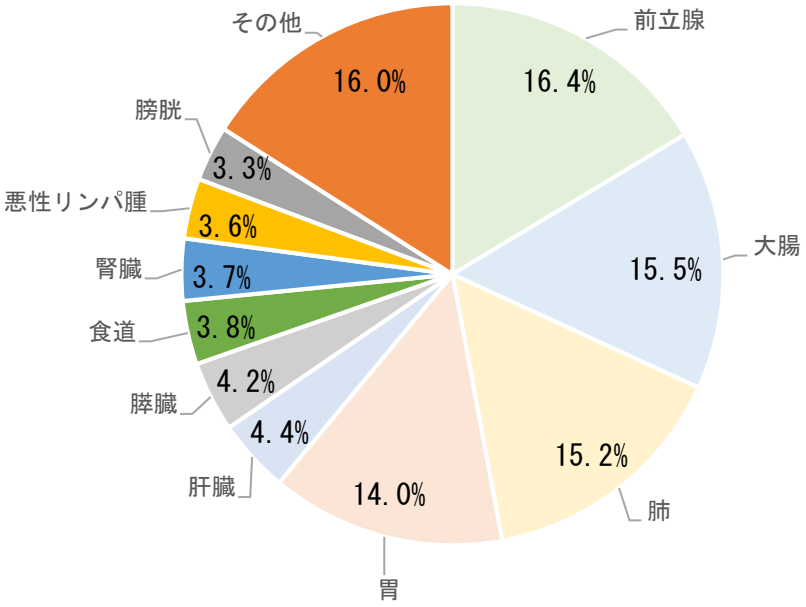
一次検診で「要精密検査」と判定された場合、「がんではないか」と怖く感じる人もいるかもしれません。しかし、最終的に「がん」と診断される人はそれほど多くないことも知っておいてください。



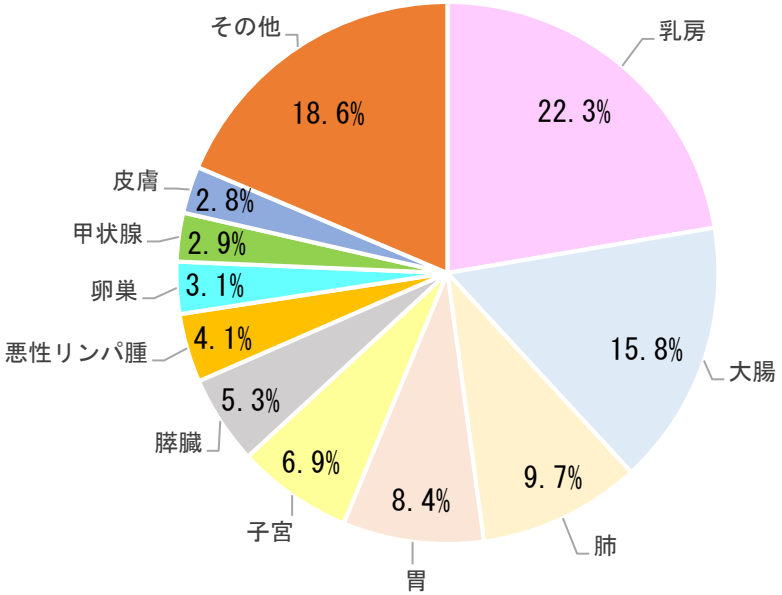
大腸がん検診、乳がん検診をそれぞれ１万人ずつ受診したとすると、大腸がんでは 607 人、乳がんでは 447 人が一次検診で「要精密検査」と判定される割合（日本対がん協会 2017 年度がん検診の実施状況）になります。精密検査を受ける人は、大腸がんが約 417 人、乳がんが約 407 人で、それぞれ 17 人、24 人のがんが見つかる計算です。「要精密検査」と判定されても、それがすぐにがんに結びつくわけではないことはおわかりいただけると思います。しかし、大腸がんで約 30%、乳がんで約 10%の人が精密検査を受けずに済ませてしまいます。この中にも一定の割合でがんが潜んでいます。精密検査は必ず受診することが重要です。

日本対がん協会「がん検診の目的と効果」より引用

部位別がん罹患割合（2020年）男性



部位別がん罹患割合（2020年）女性



厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課
全国がん登録 罹患数・率 報告(2020 年)より

乳　が　ん　検　診

● 令和４年度検診実績等

・全体実績

	受診者	要精検者		精検受診者		発見がん		陽性反応適中度
	件数	件数	（%）	件数	（%）	件数	（%）	（%）
マンモグラフィ検査	27,738	957	3.5	915	95.6	87	0.31	9.09
乳房超音波検査	27,995	551	2.0	508	92.2	70	0.25	12.70

・病期別乳がん発見数（マンモ：N=87 人　乳超：N=70 人）

	0・Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		Ⅳ期	
マンモグラフィ検査	63 人	72.4%	20 人	23.0%	4 人	4.6%	0 人	－
乳房超音波検査	55 人	78.6%	15 人	21.4%	0 人	－	0 人	－

マンモグラフィ検査で「要精密検査」判定となり精密検査を受けて、「乳がん」と診断された 87 人のうち、63 人(72.4%)が「早期がん(0・Ⅰ期)」でした。

乳房超音波検査で「要精密検査」判定となり精密検査を受けて、「乳がん」と診断された 70 人のうち、55 人(78.6%)が「早期がん(0・Ⅰ期)」でした。

マンモグラフィ検査で「要精密検査」判定となったものの精密検査を受けなかった 42 人に、マンモグラフィ検査の陽性反応適中度（9.09%※1）を当てはめると、さらに 4 人※2 に「乳がん」が見つかる可能性があります。

※1　がん発見数/要精検者数＝（87/957 人）×100=9.09%　　※2　42 人×9.09%÷100≒4 人

乳房超音波検査で「要精密検査」判定となったものの精密検査を受けなかった 43 人に、乳房超音波検査の陽性反応適中度（12.70%※3）を当てはめると、さらに 5 人※4 に「乳がん」が見つかる可能性があります。

※3　がん発見数/要精検者数＝（70/551 人）×100=12.70%　　※4　43 人×12.70%÷100≒5 人

・**マンモグラフィ検査**のカテゴリー別精検受診者からの発見がん数

判定区分	要精検者	精検受診者	（%）	発見がん	（%）
C３（良性しかし悪性否定できず）	884 人	847 人	95.8%	47 人	5.5%
C４（悪性疑い）	55 人	50 人	90.9%	26 人	52.0%
C５（悪性）	16 人	16 人	100.0%	14 人	87.5%

マンモグラフィ検査で「C5（悪性）」判定となり、精密検査を受けた 16 人のうち 14 人(87.5%)に「乳がん」が見つかっています。

・**乳房超音波検査**のカテゴリー別精検受診者からの発見がん数

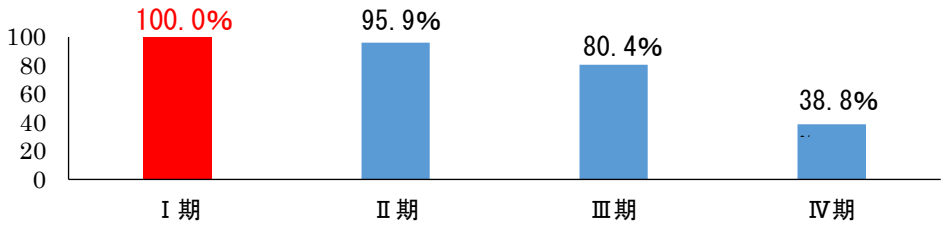
判定区分	要精検者	精検受診者	（%）	発見がん	（%）
C３（良性しかし悪性否定できず）	486 人	449 人	92.4%	31 人	6.9%
C４（悪性疑い）	55 人	51 人	92.7%	31 人	60.8%
C５（悪性）	10 人	8 人	80.0%	8 人	100.0%

乳房超音波検査で「C5（悪性）」判定となり、精密検査を受けた 8 人のうち 8 人(100.0%)に「乳がん」が見つかっています。

● 精密検査の重要性

・乳がんの発見が遅れるほど生存率が大きく低下します。
　乳がんはⅠ期で見つかれば 5 年相対生存率は 100.0%と高値ですが、Ⅳ期では 38.8%と大きく低下します。

【乳がん病期別 5 年相対生存率】



＊全国がんセンター協議会「2011-2013 の 5 年相対生存率

	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他の疾患	異常なし
マンモグラフィ検査※1	87 人 (9.5%)	11 人 (1.2%)	158 人 (17.3%)	85 人 (9.3%)	267 人 (29.2%)	307 人 (33.6%)
乳房超音波検査※2	70 人 (13.8%)	4 人 (0.8%)	163 人 (32.1%)	87 人 (17.1%)	141 人 (27.8%)	43 人 (8.5%)

※1 精密検査を受けた 915 人の内訳　　※2 精密検査を受けた 508 人の内訳

・精密検査を受けることで「乳がん以外の疾患」も数多く発見されています。精密検査を受けた方の約 60%に「乳がん以外の疾患」が見つかりました。
・がんは早期に見つけて治療することが、その後のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）のためにとても重要です。必ず精密検査を受けましょう。